

令和6年  
2024年

11月7日  
木曜日

第11590号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6か月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1  
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



京都府公取協が「食肉に関わる食品表示研修会」を開催……P6

CONTENTS

- ▶ 農畜産業振興機構、食肉販売動向調査「24年上半期実績と下半期の見通し」①……………P2
- ▶ 1～9月の農林水産・食品輸出額、牛肉は434億7900万で8・1%増農水省……………P2
- ▶ プリマハム決算会見①、千葉社長「環境厳しいが、シェア拡大進む」……………P3
- ▶ 松本常務「課題であった収益性の改善が進んだ」—日本ハムの2025年3月期中間決算説明会②…P4
- ▶ 新潟県胎内市で鳥フル発生、採卵鶏約35万羽が殺処分—農水省……………P4
- ▶ 北海道環境生活部自然環境局が大阪で「エゾシカ料理セミナー」開催……………P5
- ▶ [畜産物卸売価格・10月] 交雑牛B3価格は前年同期比141円高……………P5
- ▶ 京都府公取協が「食肉に関わる食品表示研修会」を開催……………P6
- ▶ 滋賀で「SHIGA KOMECON 2024」開催、滋賀三水会などが出展……………P7
- ▶ 月刊誌「ミート・ジャーナル12月号」で冷解凍機器に関する特集を企画、アンケート調査を実施中……………P7
- ▶ 【関東の輸入豚肉現物相場】C、Fともにベリーの荷動き堅調……………P8
- ▶ 【関東の国産豚肉現物相場】C、Fともにバラやスソ物堅調……………P8
- ▶ ハニューフーズが東日本食肉(株)への資本参加と経営支援を発表……………P8
- ▶ [資料] 畜産卸売価格の推移……………P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 6日……………P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 6日……………P11

## 注目のヘッドライン

### 農畜産業振興機構、食肉販売動向調査「24年上半期実績と下半期の見通し」

農畜産業振興機構は、2024年度上半期(24年4～9月)の実績および24年度下半期(24年10月～25年3月)の見通しについて調査を行った(24年8月時点)。

…詳細はP2

### 1～9月の農林水産・食品輸出額、牛肉は8・1%増—農水省

…詳細はP2

国内で唯一、最大級の食肉総合見本市

第49回

## 2025 食肉産業展

2025 Japan Meat Industry Fair 49th.

ご来場をお待ちしております!



肉のサステナビリティとイノベーション

会期 ● 2025年 3月11日(火) ⇒ 14日(金)

会場 ● 東京ビッグサイト 東7ホール 主催 ● 食肉産業展実行委員会 後援 ● 農林水産省、厚生労働省ほか

同時開催



アジア最大級の食品・飲料総合展示会

The 50th International Food and Beverage Exhibition

FOODEX JAPAN 2025

食肉産業展HPはコチラ ▶ <https://www.shokuniku-sangyoten.jp>

食肉産業展東京事務局 ☎03-3663-2011

## 農畜産業振興機構 食肉販売動向調査「24年上半期実績と下半期の見通し」①

農畜産業振興機構は食肉の消費・販売動向を把握するため、年に2回、卸売業者や小売業者(量販店および食肉専門店)の協力を得て、食肉の取り扱いや販売見通しに関するアンケート調査を実施している。今回は、2024年度上半期(24年4~9月)の実績および24年度下半期(24年10月~25年3月)の見通しについて調査を行った(24年8月時点)。調査の概要は以下のとおりである。

卸売業者27社(うち、牛肉卸14社、豚肉卸13社)、小売業者(うち、量販店20社、食肉専門店61社)を対象に24年8月1~26日にアンケート調査を行い、全社から回答を得た。なお、調査対象者は、食肉の市況(仲間相場)や小売価格について、同機構が定期的に調査を実施している主要な食肉の卸売業者および小売業者であり、すべての業者ではない。

今回の調査で特徴的であったのは次の7点だった。

①24年度上半期(実績)は、前期(23年度下半期)に続き、円安やインフレの進展による物価上昇などの影響が調査の回答に反映される結果となった。

②卸売業者における24年度上半期の販売状況について、牛肉全体では、5割が「減少」と回答があった。品目別にみると、和牛は「小売向け需要の増加」などから「増加」が最も多かった一方、輸入品(冷蔵・冷凍)は「相場高」や「外食向け需要の減少」などから「減少」が最も多かった。他方、豚肉全体では、5割弱が「同程度」と回答があった。品目別にみると、国産豚肉は「相場高」などから「減少」が最も多く、輸入品(冷

蔵・冷凍)は「同程度」が最も多かったものの「相場高」などから「減少」が「増加」を上回った。

③卸売業者における今後1年間の取扱見通しについて、輸入牛肉全体では、6割以上を「減少」が占める中、米国産が「相場高」などから「減少」、豪州産が「外食・小売向け需要の増加」などから「増加」となった。

④小売業者(量販店)における24年度上半期の販売状況について、和牛および国産鶏肉が「販促強化」などから「増加」となった一方、輸入牛肉および輸入豚肉が「値上げによる影響」などから「減少」となった。

⑤小売業者(量販店)における24年度下半期の販売見通しについて、交雑牛が「販促強化」などから「増加」となった一方、輸入牛肉が「原価高」などから「減少」となった。

⑥卸売業者における24年度上半期の在庫量について、ほとんどの区分で「計画どおり」との回答が最も多かったものの、輸入牛肉(冷蔵)でのみ「外食・小売向け需要の減少」などから「多かった」との回答が最も多かった。

⑦物流の2024年問題の対応状況については、卸売業者からは「検討中」、量販店からは「対策済み」、食肉専門店からは「何もしない」との回答が最も多かった。対応策については、いずれも「配送回数の減少」が最も多く、次いで「配送時間帯の変更」などが多く挙げられた。(続く)

## 1~9月の農林水産・食品輸出額、牛肉は434億7900万で8・1%増 農水省

農水省はこのほど、2024年1~9月の農林水産・食品の輸出額を公表した。1~9月の累計額は、1兆463億円(前年同期比0・7%減)となった。

累計額を品目別にみると、牛肉が434億7900万円(8・1%増)、豚肉が16億1100万円(17・8%減)、鶏肉が18億500万円

(2・1%増)となり、9月単月の輸出額においては、牛肉が57億500万円(前年同月比4・9%増)、豚肉が1億7100万円(26・8%減)、鶏肉が2億2200万円(10・0%減)となった。このうち、牛肉についてはタイやベトナムにおいて輸出額の増加がみられた。

## プリマハム決算会見①、千葉社長「環境厳しいが、シェア拡大進む」

プリマハムは5日、同日発表した2025年3月期中間決算会見を東京都品川区の本社で開催。会見には千葉尚登社長(写真)、内山高弘専務執行役員管理本部長、新川裕二専務執行役員営業本部長、田悟敏弘専務執行役員生産本部長、網野真常務執行役員食肉事業本部長、鯛健一常務執行役員総合企画本部長らが出席した。概要は次のとおり。

【千葉社長】25年度上期は、増収減益となった。売り上げは前年同期比103%と前期を上回った一方、営業利益は前期を約6億円下回り、約90%となっている。これについては原価率が0.5%上昇し、売上総利益率が悪化。販管費については努力して経費などを削減したが、合計の営業利益率は0.4ポイント下回った。ただ、特別利益があるため、最終的な税金等調整前の段階では前年同期を上回る利益となっている。結果として、純利益は前年を4億円上回る43億円となったが、期初予想は下回った。

大きな要因は二つある。一つはベンダー事業の苦戦であり、プライムデリカの不調だ。これにはさまざまな理由があるが、取引先自体がかなり苦勞されているので、ある意味やむを得ない状況といえる。下期は先方と話をしながら、もう一度しっかり頑張っていく。

さらに値上げはある程度できているものの、想定外に為替が円安に向かったことで、その部分をすべて値上げに転嫁できていない。もちろん、お客さまとの交渉はさせていただいているが、当初見込んでいたとおりにはなっていない。ただ、円安を含めた原価上昇によるマイナスは、値上げによる利益のプラスでほぼ相殺されている。

セグメントごとにみると、加工食品事業部門は営業利益が前年比で5億円下回っているが、ベンダー事業を除けば、前年並みの水準だ。一方、食肉事業部門についても、前年には1億円届いていない。

経営環境については製造コストが上がっていることに加え、輸入食肉の現地相場が上がっていることもあり、非常に難しい環境だ。一方、インバウンド需要が伸びている中で外食関係は伸びており、スーパーのコンシューマー商品自体も売上自体は良かった。

そうした中でも消費者の節約志向の強さが垣間み



えたが、当社の生産数量は前年を上回った。さらに民間企業の調査でもシェアを伸ばしており、「香薫」などを中心にPOSデータでも金額や買上点数については非常に堅調だ。

加工食品事業部門のうち、ハム・ソーセージの販売数量については、前年比101%となっている。そのうち、コンシューマーシェアは1.3ポイント上昇した。

食肉事業部門の営業利益については、前年から1億円のマイナスとなった。販売面においては現地相場高や円安による仕入コスト上昇などによりマイナス7億円となった一方、養豚事業においては国産豚肉相場が堅調に推移したことなどから、プラス6億円となった。

24年度通期予想について変更はない。ただ、単純に年間計画から上期実績を引いた下期計画としては、例えば営業利益率は上期実績が2.7%だったため、下期は4.1%まで上げなければ、年間計画の3.4%には未達となる。これをセグメント別にみると、加工食品事業部門は上期3.6%だったものを下期は5.0%に、同じく食肉は上期0.7%だったものを3倍の2.4%まで上げていかなければ、通期計画に届かない。

とはいえ、食肉事業部門は、相場にかなり収益が左右されるため、相場状況によってはそうしたこともあり得る。さらに加工食品事業部門については、値上げが徐々に浸透してきている中で、シェア拡大もできているため、まったく届かないとは思っていない。加えてベンダービジネスにおける得意先も、最近新たな戦略を打ち出してきたので、そういった分野においてもまだまだ不確実なことがあるため、現状だけで判断するより、もう四半期くらいをみながら最終判断していきたい。(連載続く)

## 松本常務「課題であった収益性の改善が進んだ」 日本ハムの2025年3月期中間決算説明会②

日本ハムが1日に行った2025年3月期第2四半期決算説明会見での、松本之博常務執行役員加工事業本部長(写真)による加工事業本部の概況説明は次のとおり。

発表のとおり、加工事業本部の25年3月期第2四半期売上高は2086億円(前年同期比1・1%減)、事業利益は47億円(62・3%増)で減収増益だった。売上高については、商品ミックスの改善に伴い、計画的に低収益商品を減少させた結果、トータルで減収となった。ただし、シャウエッセンやエキス、1次加工品、乳製品など高収益の商品が伸長している。その結果、事業利益が計画を上回ることができた。課題であった事業利益率も2・3%と前年同期比で0・9ポイント改善できた。改善の要点としては、低収益商品の見直しと価格改定による単価改善が継続したこと、商品政策の見直しによる製造経費の効率化が挙げられる。上期の段階では低収益商品の削減がやや先行してしまい、販売数量減少が目立ったが、改善効果と合わせるとトータルでは大きく収益改善につながった。乳製品、水産品、エキス、1次加工品といった日本ピュアフード、日本ルナなどグループ企業も売り上げを落とすことなく価格改定を実施し、収益に大きく貢献した。

通期の見通しは、現時点で売上高4190億円(2・8%減)、事業利益105億円(7・9%増)、事業利益率2・5%(0・2ポイント増)を見込んでいる。商品構成見直しによる数量減少は続くが、主



力ブランドの拡販で売り上げを確保し上期よりも回復していくと見込む。業務用については、コンビニエンス・ストア向けの売り上げが低迷しており、下期は厳しい

環境であるとみている。開発提案を強化し、底上げを図っていく。事業利益については、ここまで進めてきた構造改革の効果継続して発現させ、計画どおりの収支を達成させる。事業の方向性としては、商品ミックスの改善に加え、下期は主力カテゴリーのさらなる伸長、回復に向けたマーケティングを強化していく。とくにシャウエッセンは、ブランドエクステンションが順調に進んでおり、今年発売した「シャウスライス」が好調に推移。10月に発売した「シャウエッセン 夜味」も計画を上回る販売実績で推移している。その他のカテゴリーも収益性を改善した新商品を投入し、全体の

回復をさらに加速させていきたいと考えている。(連載続く)



## 新潟県胎内市で鳥フル発生、採卵鶏約 35 万羽が殺処分—農水省

農水省は6日、新潟県胎内市の家禽農場で高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認(今シーズン

国内5例目)されたことを発表した。これを受け、同農場の採卵鶏約35万羽が殺処分となる。

## 北海道環境生活部自然環境局が大阪で「エゾシカ料理セミナー」開催

北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課は10月31日、大阪市北区のハウジングデザインセンター大阪「C terrace」で「エゾシカ料理セミナー in 大阪～エゾシカブランドの推進～」を開催。北海道バリュースコープ(株)が大阪府の食肉卸(株)ティーアイの協力を得てシェフ・飲食関係者、皮革関係者らを招き、「SDGs×ジビエ 食べて学ぶ」をテーマに講演やエゾシカ肉の解体・調理実演、試食&意見交換会などを行った。

開会に当たり同野生動物対策課の川村暁義主幹が「北海道のエゾシカは近年、生息数が増加傾向にあり、鳥獣被害や交通事故も増えている。それに対応するため今年1月から3年間を緊急対策期間に設定し、捕獲を強化している。現状、道内には73万頭が生息しているといわれており、去年は過去最大の15万頭を捕獲したが、それでも追いつかない。捕獲を進めてはいるが、廃棄するだけでなく、肉や皮といった資源を有効活用しようと考え、毎月第4火曜日を『シカの日』に定め、料理店や販売店を紹介する取り組みを進めている。また、安全・安心な商品を提供するため、高度な衛生管理を行う処理施設を『エゾシカ肉認証処理施設』として認証マークを表示することを認めている。本日はセミナーを通じ、皆さんの理解を深めていただ

きたい」とあいさつ。

続いてエゾシカ食肉事業協同組合の曾我部元親代表理事が「安全でおいしいエゾシカ肉生産の取り組み」と題し講演。北海道の鳥獣被害の現状や「困いわな」による生体捕獲や猟銃による捕獲方法、肉の処理・流通過程、枝肉冷蔵庫での管理方法、エゾシカ衛生処理マニュアル、トレーサビリティ、肉の栄養成分、道内の解体処理施設の現状、マイスター制度、学校給食での活用、地元飲食店で提供される料理などを解説した。

次に(株)24K(24KIRICO)の高瀬季里子代表が「地域の素材や特性を生かしたモノづくり」をテーマに講演を行った。高瀬講師はエゾシカの皮を使ったバッグや小物などを製造・販売。自身の生い立ちやブランドの立ち上げに至る経緯や現在の活動状況などを披露した。

また、(株)アイマトンの黒島俊也取締役が1歳の雄のエゾシカ肉を解体実演。枝肉を部分肉に小割りしながら、それぞれの部位に適した料理を紹介したほか、インターコンチネンタルホテル大阪の柴原仁崇料理長がエゾシカ肉を使ったメニューとして「酢鹿」「鹿のコンソメ」を調理した。参加者による試食が行われた後、質疑応答を経てセミナーを修了した。

## 【畜産物卸売価格・10月】交雑牛B3価格は前年同期比141円高

農水省食肉鶏卵課がまとめた10月の畜産物卸売価格の推移(9面参照)によると、豚の全国と畜頭数(速報値)は145万4300頭(前年同月比1.2%増)となった。豚肉「極上」「上」の価格は東京が620円(59円高)、大阪が583円(44円安)。成牛のと畜頭数は9万7890頭(2.0%増)となり、東京では和牛去勢A4価格が2091円(33円高)、交雑牛B3が1563円(141円高)となった。

【豚】全国の1日あたりの平均と畜頭数は、上旬が6万3225頭(5.5%増)、中旬が6万1271頭(3.0%減)、下旬が6万5511頭(0.8%増)。東京の価格は上旬が619円(2円高)、中旬が626円

(58円高)、下旬が617円(106円高)で、大阪は上旬が639円(37円安)、中旬が592円(29円安)、下旬が550円(43円安)となった。

【牛】全国の1日あたりの平均と畜頭数は、上旬が4548頭(0.8%減)、中旬が3290頭(0.2%増)、下旬が4276頭(15.1%増)。東京の和牛去勢A4価格は上旬が2091円(60円高)、中旬が2066円(11円高)、下旬が2109円(9円高)となり、交雑牛去勢B3価格は上旬が1581円(164円高)、中旬が1542円(119円高)、下旬が1557円(130円高)となった。

## 京都府公取協が「食肉に関わる食品表示研修会」を開催

京都府食肉公正取引協議会(吉岡浩人会長)は1日、京都市中京区のホテルオークラ京都で「食肉に関わる食品表示研修会」を開催。京都府農林水産部農政課の八谷純一参事が「食肉に関わる食品表示について」、同文化生活部生活衛生課食品衛生係の佐分利智子主任が「食品表示について～衛生事項～」のテーマでそれぞれ講演を行った。

また同日、京都市食肉協同組合(同理事長)は「生産性向上に向けた研修会」を同会場で開催。TOPPAN(株)西日本事業本部関西クロスステックビジネスイノベーション事業部第二営業部第一部1チームの三原雅司氏、同関西企画販促本部マーケティング企画部製造物流DX推進チームの睦好三千男氏を講師に迎え、「生産性向上を実現するポイント」と題した講演を聴講した。

研修会は公取協、協同組合の順で実施。公取協研修会は令和6年度食肉流通経営体質強化促進事業として開催された。冒頭、吉岡会長は「現在、物価高騰により和牛の消費が全国的に鈍っている。年末に向けて正しい表示をし、お客さまの信頼を得て消費回復につなげていただきたい。衛生基準についてはアレルギーの問題が大きい。弊社が運営するレストランでも入居する百貨店からアレルギーをチェックするアプリを使って講習を行うよう求められた。事故例としては、バイキング形式のレストランで小麦アレルギーを持つ方がウイナーしか食べていなかったにもかかわらず、同じ鍋で麺をゆでていたために事故に至った例もあるという。命に関わる問題でもあり、十分注意していただきたい」とあいさつした。

続いて八谷講師が食品表示法、生鮮食品・加工食品の表示事項、罰則・最近の違反事例などについて説明。その中でも特に、原材料や産地表示に関する品質事項、栄養成分表示に関する保健事項について必要な対応を説明した。佐分利講師は衛生事項に特化して解説。アレルギーに関しては特定原料8品目、特定原料に準ずる20品目の推奨表示を示し、表示方法についても説明した。また、食品添加物、期限表示・保存方法などについても具体的な資料を示し解説した。

京都府生産性向上・人手不足対策事業として実施



された協同組合の研修会では、開会に先立ち、吉岡理事長が「日頃から人手不足の課題に悩まれている方も多くおられると思う。生産性向上を目指して、われわれも業界の中で努力はしているが、12月の繁忙期になって売り上げが3～5割伸びてくるとみられる中、残業など労働時間への対応が難しくなる。本日は他業界での成功事例をいろいろ学び、この年末に向けて参考にしていただきたい。ぜひ皆さんには多くの課題を“TOPPA!!!(突破)”していただけるよう学んでほしい」とあいさつ。

三原講師は「生産性向上勉強会～他業界における成功事例から学ぶ生産性の向上～」をテーマに、TOPPANグループの取り組みを紹介し、同社の「『DX』と『SX』によってワールドワイドで社会課題を解決するリーディングカンパニーへ」をキーコンセプトとした中期経営計画を披露。出版やパッケージ、ICカード・タグ、エレクトロニクス、建装材・空間デザイン、マーケティング・プロモーション、地方創生・観光支援、DXと幅広い分野での課題解決を支援してきた実績を説明した。その中で物品管理、作業、人、機械、物流などでDXを推進することにより、在庫や個体管理の効率化を図ってきた事例を紹介。睦好講師はパッケージを見直すことによりエコや消費期限延長に貢献してきた実績を披露した。講演終了後には質疑応答が行われ、木村昌彦副理事長が閉会の辞を述べて研修会を終了した。

## 滋賀で「SHIGA KOMECON 2024」開催、滋賀三水会などが出展

滋賀県彦根市の平和堂本部(HATOC駐車場)で、「米」をテーマに地域振興・地方創生を目的としたフードイベント「SHIGA KOMECON 2024」が11月2日、3日に開催。イベントでは滋賀県産のブランド米6種の食べ放題のほか、ご飯の「おとも」として、近江牛のすき焼き、うなぎの蒲焼きなどの製品を提供するブースが出展されるなど、多くの来場者が訪れた。

同イベントは、滋賀県出身で滋賀ふるさと観光大使を務める人気歌手西川貴教さんが「滋賀のお米のおいしさを全国に広めたい」と、企画から演出までを総合プロデュースした、新感覚のフードフェス。事前購入したチケット(プレミアム5000円、スタンダード3600円=近江米6種食べ放題+おともチケット10枚)を持った参加者が、地域の農産物を食しながら、用意されたさまざまなイベントを楽しむという、一般的なフードフェスにエンターテインメントの要素を付加した「体験型のイベント」だ。

本紙関係では「ごはんのおとも」として、滋賀県食肉三水会がブース出展し、近江牛マエバラをすき焼き風にして提供。2日間で1500食を販売し、盛況となった。そのほか、近江牛しぐれ、後藤屋(ご飯にかける生姜焼き)、石井食品(滋賀東近江のキャベツを使ったハンバーグ 近江ちゃんぽん風)、平和堂(から揚げ)などが出展した。



主催の西川さんは、これまで音楽アーティストとしての活動のほか、滋賀県で大規模野外音楽イベント「イナズマロックフェス」を立ち上げて、軌道に乗せた実績を持つ。そうした経験を踏まえ「米や農産物の普及促進イベントなどは全国で行われているが、大半は無料での開催。そのため、自治体や主催者の持ち出しの負担が大きく持続的に開催していくことが困難」だと、課題を指摘。そのため「米は全国どこでも作られている作物。自治体や(ご飯のおともを提供する)加工事業者などと連携しながら、イベントとしても収益が出る仕組みを作り上げ、このフォーマットを全国に波及させていきたい」と話した。



## 月刊誌「ミート・ジャーナル 12月号」で冷解凍機器に関する特集を企画、アンケート調査を実施中

弊社発行の月刊誌「月刊ミート・ジャーナル」12月号では、冷凍・解凍機器に関する最新情報を取りまとめ、特集いたします。本特集の企画の中で、食肉業界の冷凍・解凍事情についてアンケート調査を行うこととなりました。つきましては、本紙読者の皆さまにも同アンケート調査にご協力をいただけますと幸いです。回答は、アンケートURL([https://docs.google.com/forms/d/1QyavfJ5RO7KNbzunrSoE0vRa0BPWePsqNmqr7P\\_9suU/edit](https://docs.google.com/forms/d/1QyavfJ5RO7KNbzunrSoE0vRa0BPWePsqNmqr7P_9suU/edit))から、もしくは次のQRコードにアクセスしていただき、ご回答をお願いいたします。

ご回答いただいた皆さまには、本誌発刊後、特集記事のPDF版を回答時に登録されたメールアドレスにお送りさせていただきます。アンケート回答にはメールアドレスの入力が必要ですが、このPDF版の送付以外の目的に使用することはございません。ご希望者には、冷凍・解凍機器メーカーの担当者をご紹介させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



## 【関東の輸入豚肉現物相場】C、F共にベリーの荷動き堅調

[フローズン]11月に入り、気温も下がってきたことから鍋物需要が本格化しているが、野菜の高騰などもあって節約志向は強く、ベリー等を中心にフローズンポークの解凍スライス品の引き合いは強まっている。一方、ブラジルなどの輸入量も多かったことで、在庫水準は引き続き高い。

[チルド]為替は再び円安傾向となっているが、米国の大統領選挙の結果などを含め、今後も不透明な状況が続くそう。鍋物需要の増加などもあり、国産相場が依然として底堅く推移している中、ベリーなどのスライス系商材を中心に全体的には堅調な荷動きが続いており、需給は比較的締まっている。

輸入豚肉現物相場(関東仲間冷蔵庫渡し)

		円/キロ、税抜き		
	輸入元	部位	相場	気配
フローズン	米国産	クッションミート	730中心	→
		テンダーロイン	860中心	→
	カナダ産	ショート・ボックス	780中心	→
		ウデ	750中心	→
		モモ	750中心	→
	デンマーク産	ベリー	900中心	↗
		カラ	880中心	↗
		ロインMM	870中心	→
		テンダーロイン	860中心	→
	フランス産	シートベリー	900中心	↗
カタロース		880中心	↗	
チルド	米国産	ロイン(FLON)	780中心	→
		CCロイン	780中心	→
		ヒレ(船便)	1,050中心	→
		山付ベリー	1,200中心	↗
	カナダ産	ボックス	830中心	→
		テンダーロイン ベリー	1,130中心 1,150中心	→ ↗

## 【関東の国産豚肉現物相場】C、F共にバラやスソ物堅調

11月に入っても枝肉価格は引き続き上物価格600円を超える相場展開となっており、この時期としては高値が継続している。今月に入り、四国で豚熱が発生したが、今後は気温が下がってきてPEDなどの疾病リスクも高まる時期であり、出荷頭数への影響も懸念される。需要については、鍋物需要の本格化でバラなどを中心に引き合いは強く、さらにウデやモモといったアイテムについても荷動きは悪くない。一方、ロイン系の動きは鈍い。

フローズンもバラの引き合いは強く、カタロースの荷動きも悪くない。ギフト向けの引き合いなども

みられ、スソ物の荷動きも堅調。一方、この時期になっても枝肉相場がなかなか下がってこないため、年末に向けての凍結回しもしにくい状況にある。

関東の国産豚カット肉相場

		円/キロ	
生鮮物		冷凍物	
部位	相場	部位	相場
カタロース	1,030~1,100	カタロース	860~910
ウデ	730~800	ウデ	650~700
ロース	950~1,050	ロース	850~900
バラ	1,080~1,180	バラ	950~980
モモ	730~800	モモ	670~720
ヒレ	980~1,100	ヒレ	850~900

## ハニューフーズが東日本食肉(株)への資本参加と経営支援を発表

ハニューフーズは5日、東日本食肉(株)(仙台市)からの要請を受け、同社の経営安定化と発展をバックアップするため、ハニューフーズグループから資本参加と経営支援を行うと発表した。なお、同社は10月22日開催の臨時株主総会において、以下のとおり役員改選を実施した。

社名 東日本食肉株式会社▷代表取締役社長 佐藤和美、代表取締役常務 曾根敦(新任)、取締役 佐久間憲一、監査役 高田滋彦(新任)▷所在地 宮城県仙台市若林区卸町東5丁目2番18号▷電話 022(390)4721、FAX 022(288)2298

[資料] 畜産卸売価格の推移

(令和 6年 10月)  
単位：頭数(頭)、価格(円/kg)

	豚肉 極上・上					牛肉			全国と畜 頭数		鶏卵 東京	鶏肉 東京	
	東京		大阪		加重 平均 価格	東京(加重平均価格)			豚	成牛	(M)	もも	むね
	価格	頭数	価格	頭数		和牛 去勢 A 4	交雑 去勢 B 3	乳用種 去勢 B 2					
5年 9月	696	6,716	704	683	697	2,065	1,454	746	1,292,791	89,833	292	667	389
5年 10月	561	7,876	627	792	567	2,058	1,422	828	1,437,124	96,004	283	665	384
上 旬	617	2,093	676	235	623	2,031	1,417	825	59,917	4,585	294	658	381
中 旬	568	3,089	621	275	572	2,055	1,423	859	52,867	3,285	284	664	384
下 旬	511	2,694	593	282	518	2,100	1,427	729	64,986	3,716	272	670	386
6年 9月	668	6,940	741	453	672	2,066	1,590	1,077	1,277,605	90,087	256	641	381
6年 10月	620	7,477	583	810	617	2,091	1,563	1,048	1,454,300	97,890	275	669	393
上 旬	619	2,673	639	204	621	2,091	1,581	1,044	63,225	4,548	270	660	390
中 旬	626	1,976	592	211	623	2,066	1,542	1,064	51,271	3,290	276	668	394
下 旬	617	2,828	550	395	608	2,109	1,557	1,040	65,511	4,276	280	677	394
1日(火)	601	399	-	-	601	2,095	1,637	1,064	63,100	4,490	270	653	388
2日(水)	617	224	655	21	620	2,074	1,606	1,062	62,000	4,690	270	-	-
3日(木)	599	305	608	22	600	2,114	1,564	1,000	60,900	4,160	270	651	385
4日(金)	601	435	604	44	601	2,086	1,571	-	58,000	4,610	270	658	386
5日(土)												663	391
6日(日)													
7日(月)	617	272	651	38	621	2,092	1,560	-	64,600	4,690	270	665	392
8日(火)	643	405	689	7	644	2,104	1,588	-	65,900	4,970	270	666	393
9日(水)	655	293	651	63	654	2,068	1,587	1,056	65,300	4,950	270	-	-
10日(木)	628	340	674	9	629	2,101	1,544	-	66,000	3,820	270	667	392
11日(金)	635	432	-	-	635	2,029	1,553	1,010	64,800	4,550	270	664	390
12日(土)									500	-		673	396
13日(日)													
14日(月)									14,000	110			
15日(火)	645	270	694	37	651	2,050	1,498	-	74,000	4,950	270	669	393
16日(水)	644	423	624	31	643	2,075	1,486	-	69,300	4,790	280	-	-
17日(木)	612	401	581	95	606	2,086	1,539	1,100	69,700	4,120	280	668	394
18日(金)	603	450	513	48	594	2,081	1,591	1,081	66,600	4,500	280	663	396
19日(土)												673	395
20日(日)									-	10			
21日(月)	588	314	549	91	579	2,043	1,502	-	66,000	4,950	280	676	393
22日(火)	607	336	767	17	615	2,107	1,529	-	66,300	4,310	280	677	396
23日(水)	615	273	524	54	600	2,059	1,554	1,027	65,400	4,230	280	-	-
24日(木)	618	334	514	68	600	2,044	1,512	917	66,900	3,860	280	677	396
25日(金)	625	419	508	33	616	2,183	1,631	-	61,200	4,090	280	674	395
26日(土)												680	395
27日(日)													
28日(月)	620	278	575	62	612	2,127	1,554	-	63,700	4,540	280	679	396
29日(火)	631	395	576	7	630	2,122	1,524	-	67,400	4,400	280	682	398
30日(水)	622	240	550	15	618	2,153	1,604	1,050	65,000	4,200	280	-	-
31日(木)	620	239	546	48	608	2,169	1,546	1,080	67,700	3,900	280	672	386

注1) 当月の価格及び頭数は速報値  
 注2) 牛肉の価格は、生体及び搬入の加重平均(全て瑕疵含む)  
 注3) 「-」は取引無し

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月6日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,130	2,535	2,211	-	-
		安値	2,295	2,112	1,831	-	-
		平均	2,619	2,299	2,061	-	-
	80頭	頭数	51	22	7	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,381	2,203	-	-	-
	2頭	頭数	1	1	-	-	-
	去 A	高値	3,617	2,377	2,249	-	-
		安値	2,245	2,138	1,807	-	-
		平均	2,605	2,292	2,095	1,938	-
		173頭	頭数	120	43	9	1
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	2,131	-	-	
1頭	頭数	-	-	1	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,753	1,602	1,440	
		10頭	頭数	-	5	3	2
	雌 C	平均	-	-	1,513	-	
	1頭	頭数	-	-	1	-	
	去 B	平均	-	1,719	1,593	1,542	
15頭		頭数	-	3	7	5	
去 C	平均	-	1,458	1,524	1,512		
3頭	頭数	-	1	1	1		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	371	1,019	-	(競り)	(相対)	
売買	353	1,049	310.0	-	-	53

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和雌 A	高値	2,562	1,891	1,644	1,362	-
	B 安値	-	1,556	1,262	1,205	971
和去 A	高値	2,500	2,260	-	-	-
	B 安値	-	-	-	-	-
乳雌 B	平均	-	-	-	-	-
	C 平均	-	-	-	890	809
乳去 B	平均	-	-	-	1,145	-
	C 平均	-	-	-	1,133	1,008
交雌 B	平均	-	1,699	1,581	1,319	-
	C 平均	-	-	-	-	-
交去 B	頭数	-	-	-	-	-
	C 平均	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	694	821	671	646	649
	安値	645	594	572	465	379
	平均	665	624	603	579	516
	頭数	( 8)	(294)	(431)	(187)	(129)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 11月6日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和雌 A (頭数)	2,571 (15)	2,168 (8)	1,880 (2)	- (3)	- (-)
B (頭数)	- (-)	- (-)	- (-)	- (3)	- (-)
和去 A (頭数)	2,537 (27)	2,136 (7)	1,950 (2)	- (-)	- (-)
B (頭数)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
乳去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,662	1,589	1,477	-
C	-	-	1,578	-	-
交雑去 B	-	1,754	1,611	-	-
C	-	-	1,572	-	-
豚	-	565	517	438	444

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	11月6日	11月5日	(11月累計)
豚	70,900	73,100	207,300
成牛計	5,160	5,210	14,860
和牛雌	1,260	1,180	3,740
和牛去勢	1,610	1,490	4,050
乳牛雌	670	770	2,200
乳牛去勢	610	600	1,540
交雑雌	440	530	1,540
交雑去	570	640	1,780

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 11月6日

	1,535円(前日 1,416円)
東京	
大阪	1,594円(前日 1,574円)

[豚・全農建値] 11月6日

上	中	取引頭数	市況
622円	603円	1,297頭	弱もちあい

と畜	牛 107頭	豚 127頭	牛概況	もちあい
売買	牛 110頭	豚 148頭	豚概況	急落

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月6日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [七]	626 (626)	- (-)	6,482	-	もちあい
仙台 [中]	601 (610)	533 (563)	463	135	続落
宇都宮 [地]	- (-)	- (-)	1,766	13	-
茨城 [地]	631 (-)	605 (-)	1,457	521	反発
群馬 [地]	598 (599)	504 (516)	2,693	674	軟調
さいたま [中]	611 (619)	605 (603)	185	186	小反落
東京 [中]	624 (619)	603 (607)	1,019	1,049	小戻し
横浜 [中]	631 (631)	603 (605)	648	643	もちあい
山梨 [地]	602 (632)	623 (623)	164	106	下押し
浜松 [地]	590 (581)	532 (503)	337	38	上伸
名古屋 [中]	591 (587)	562 (554)	998	227	もちあい
京都 [中]	- (611)	- (590)	-	-	休市
大阪 [中]	565 (589)	517 (519)	127	129	急落
神戸 [中]	614 (-)	606 (-)	135	156	-
岡山 [地]	671 (682)	649 (650)	286	313	下押し
広島 [中]	608 (584)	556 (551)	183	101	急騰
福岡 [中]	615 (629)	582 (574)	502	124	反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 10月30日～11月5日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,221,564 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,145	1,196	1,277	1,198	61,734
うで	740	795	836	791	97,822
ロース	1,058	1,134	1,252	1,138	136,173
ばら	1,193	1,272	1,369	1,271	142,983
もも	742	778	837	780	139,719
ヒレ	1,134	1,139	1,310	1,178	10,078
セット	924	981	1,070	983	633,055

◇近畿圏 総重量 746,582 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,134	1,280	1,328	1,279	62,186
うで	715	779	810	771	119,328
ロース	1,069	1,199	1,282	1,190	101,743
ばら	1,267	1,291	1,360	1,297	145,721
もも	713	745	799	746	157,585
ヒレ	1,171	1,252	1,374	1,260	9,849
セット	896	978	1,089	985	150,170

[食鳥正肉日経相場] 11月5日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※木曜日は休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	633	677	795	154
ムネ	355	387	482	123

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	642	708	990	8
ムネ	356	418	550	8

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月5日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値					
安値					
平均					

5日分は8日掲載

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉に関する**最新**のニュースを、どこよりも**早く**お届け!

# 日刊食肉速報

## 2024年11月、リニューアル!

A4版にリニューアルして更に見やすくなりました。

また、紙媒体だけでなく、新設されたWEBページでいつでも手軽に情報チェックが可能に。

食肉関連の行政、業界の動向をはじめ、国産と輸入の相場市況、企業情報など、これからは鮮度の高い日々の業界ニュースをお届けいたします。

**紙媒体**

A4版に  
サイズUP!



**WEB  
サービス版**

手軽に情報チェック!  
バックナンバーも  
探しやすい!



購読料は  
そのまま!



仕様 | 11ページ  
(表紙)カラー (中面)モノクロ  
発行 | 月曜から金曜(祝祭日を除く)  
購読料 | 1カ年 82,080円(税・送料込)  
6カ月 42,120円(税・送料込)

\*写真はイメージです。

## 広告スポンサー募集

### 日刊だからこそ、効率的なタイミングでPR!

業界紙として70年の歴史をもつ信頼性の高い本紙にて、広告を出しませんか?  
広告サイズは幅広く対応可能です。ぜひ、貴社のビジネスにお役立てください。

イベント情報など  
スポット告知に最適

ターゲットを絞った  
訴求力の高さ

70年の歴史をもつ  
信頼性の高い業界紙

● 購読・広告掲載に関するお問い合わせ ●

東京支社 ☎03-3663-2011 ✉mail@shokuniku.co.jp

株式会社 食肉通信社